

4 研究に関する事項

第4次長期計画最終年度となる2009年度は、第5次長期計画に向け4長期におけるこれまでの研究高度化推進事業や学内助成制度の実績と経過の反省を踏まえつつ、引き続き研究関連の事業を継続実施した。

第5次長期計画に向けては、これまで4次長期計画において策定してきた研究計画を基本とし、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、さらなる研究実績の向上や研究環境の改善、また、研究支援体制の強化を図りつつ、21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した教育研究機関として広く認知されるべく、本学における「研究支援に関する取り組み」、「研究高度化推進事業の展開」、「COEに関する取り組み」、「学外資金による研究の推進」、「付置研究所の取り組み」を事業計画の柱として積極的な事業を展開した。

1 研究支援に関する取り組み

●研究支援制度

2007年度から導入した研究員制度及び2008年度から導入した個人研究費等の新たな支援制度について検証を行い、長期研究員制度の柔軟化や全学卒選考方法の見直し等、限られた財源の中で今日の研究環境を見据えた研究環境の向上を目指した研究支援を実施した。

2 研究高度化推進事業の展開

●文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業として「アフラシア平和開発研究センターAFC（2005年度採択）」「情報通信システム研究センターHRC（2006年度採択）」「革新的材料・プロセス研究センターHRC（2006年度採択）」

「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（2007継続採択）」「矯正・保護研究センターAFC（2007年継続採択）」を引き続き実施した。

●文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチセンター（2008年度採択）」を昨年度に引き続き推進した。また、新規研究プロジェクトとして「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」（代表：岡田至弘教授）及び「里山の現代的利用に関する総合研究」（代表：宮浦富保教授）を3ヶ年の大学の特色を活かした研究として申請した結果、採択され3ヶ年の研究活動を開始した。

●その他の高度化推進事業

大学が特に必要とするプロジェクト研究として独自に実施した高度化推進事業については、今年度最終年度を迎えた「アフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査」を10月に実施し、3月には370周年記念事業におけるシンポジウムにおいて5年間の研究総括を行った。新規事業としては、今後の大学の研究展開を見据え、2008年度グローバルCOEに申請し不採択となった研究プログラムにも計画されていた『混一疆理歴代国都之図』研究プロジェクトを3ヶ年の研究プロジェクトとして開始し、11月には370周年記念事業の一環として国際シンポジウムと展覧を開催した。また、2010年度から「大学間共同利用法人人間文化研究機構地域研究推進事業」に採択されている「現代インド地域研究拠点」については、2009年度を準備年度として国際シンポジウムや研究会等を開催し新たな研究展開を図った。

●研究評価の実施

2008年度に最終年度を迎えた「古典籍デジタルアーカイブセンター」「里山学地域共生学オープン・リサーチ・センター」を対象に外部評価を実施し、評価結果をもとに同

龍谷大学が展開する文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業 戦略的研究基盤形成支援事業 プロジェクト一覧

①革新的材料・プロセス研究センター（HRC）			⑤アフラシア平和開発研究センター（AFC）		
プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)	プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
エネルギー有効利用のための革新的材料研究開発	2006～2010	159,000,000	紛争解決と秩序・制度の構築に関する総合研究－アジア・アフリカ研究の地平から－	2005～2009	249,470,000
②情報通信システム研究センター（HRC）			⑥地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター		
プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)	プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
アドホック無線ネットワークの要素技術と応用に関する研究	2006～2010	154,000,000	地域における公共政策と地域公共人材の開発システムに関する研究	2008～2010	108,365,000
③矯正・保護研究センター（AFC）			⑦里山学研究センター		
プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)	プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
21世紀・新「矯正・保護」プロジェクト(NCRP21) [New "Corrections and Rehabilitation" Project in 21st. Century]	2007～2009	112,500,000	里山の現代的利用に関する総合研究	2009～2011	132,135,000 設備費含む
④人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（ORC）			⑧古典籍デジタルアーカイブ研究センター		
プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)	プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
仏教生命観に基づく人間科学の総合研究	2007～2009	109,870,000	新技術開発による文化財保存・修復科学研究	2009～2011	90,800,000 設備費含む

※2008年度より文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業は文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として実施。

研究プロジェクトの今後の研究活動への有効的活用を図った。

3 COEに関する取り組み

●COEに関する今後の取り組み

2008年度に、本学では文部科学省グローバルCOEプログラムに「仏教文化に関する世界的教育研究拠点の形成」（拠点リーダー 入澤崇教授）を申請したが残念ながら不採択であった。これまでの申請結果及び今後の申請条件等を踏まえ、総合的に判断した結果、2009年度の申請については見合わせた。なお、グローバルCOEプログラムの提唱する世界的な教育研究拠点の形成という理念は本学の目指す大学像と同じくするものであり、その積極的な推進の必要性に鑑み、実績不足等の指摘された課題の改善を最優先とし、今後COEプログラム等の競争的資金事業に採択可能な研究実績の蓄積に努めた。具体的対応として2008年度申請したCOEの研究プログラムにも計画されていた『混一疆理歴代国都之図』研究プロジェクトを3ヶ年の大学が特に必要とするプロジェクト研究として研究高度化推進事業の一つに位置づけ研究を開始した。

4 学外資金による研究の推進

●科学研究費補助金

外部資金獲得に関しては、科学研究費補助金に関する学内説明会の充実と窓口相談の対応強化や専門家による外部資金獲得方法に関する講演会を開催し、出来る限り学費に依存することなく研究の財源を確保していくための外部資金獲得に努めた。科学研究費補助金の金額については代表者採択分が総額187,467,062円、分担者分（環境省、厚生労働省含）が29,975,000円、となり本年度も当初目標に掲げた1億円以上を獲得できた。また、新規採択率については30.53%となり前年度より6.53%上昇した。

●受託研究・奨学寄付金

受託研究や奨学寄付金についてはRECや研究者の努力により2009年度は受託研究費238,993,455円、奨学寄付金25,099,907円となり2004年度以降継続して、総額1億円以上を獲得しており、研究に係る外部資金獲得額も順調に推移している。

●文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業

2008年度から、文部科学省学術研究高度化推進事業の後継事業として新たに始まった戦略的研究基盤形成支援事業については2009年度、「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」（古典籍デジタルアーカイブセンター 代表：岡田至弘理工学部教授 総予算額：90,800千円 補助金申請予定金額：52,283千円）及び「里山の現代的利用に関する総合研究」（里山学研究センター 代表：宮浦富保理工学部教授 総予算額：132,135千円 補助金申請予定額：70,199千円）の2件が採択された。

5 各研究所の取り組み

●付置研究所の取り組み

2009年度には「研究所の在り方」（2007年度答申）の答申に基づき、4つの付置研究所の有する諸課題を整理しつつ、各々の研究所では「研究所の独自性」「研究課題の多様化」に考慮した本学の研究基盤としての機能を果たし得る新しい研究所の実現に向けて取り組んだ。また、仏教文化研究所では研究所内付置研究所「仏教とカウンセリング研究センター」が、社会科学研究所では研究所内付置研究所「民際学研究センター」、「アフリカ研究センター」が新たな研究活動を行い、研究所の活性化を図っている。さらに、2009年度は社会科学研究所創設40周年にあたり、10月には記念シンポジウム「グローバル化と国境」を開催し、国際政治・経済・金融・人材・国境・紛争などの側面から議論がなされた。